

## 代表としてご挨拶申し上げます

日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

PIN JAPAN (NPO) による支援活動は、地域とともに歩みながら、子どもたちが成長し、家族が力を合わせ健やかに暮らせるように願うプログラムです。

PIN JAPAN は、皆様からお預かりした支援金や物資は、氷砂糖のように“溶ける”ことなく、総て現地の人々に役立てております。その幾つかをご紹介します。ご理解頂ければ幸いです。

### 水と衛生

安全な水の確保は、そこに住む子供は勿論のこと、生活用水として、飲料水や、人々が病気になることを防ぐために欠かせません。湧き水を取り入れ、水路を作り、井戸を掘り、貯水タンクの設備のほか、トイレの設置を行なっています。

### 保健と診療

必要とされる地域で「フリーヘルスキャンプ(無料の診察・投薬・手術・等)」を開催し、保健サービスを提供できる人材の育成と地域の医療機関と連携し病気の予防(下痢・結核・マラリア・白内障・等) 妊産婦ケアの啓発・トレーニングを推進し「簡易診療所(ヘルスポスト)」の設置をしています。

### 栄養と女体の健康

子どもたちの栄養状態を定期的にモニタリングし、保護者を対象に、専門家を交えて、栄養改善に繋がるトレーニングを「ヘルスキャンプ」時に啓発しています。特に、母乳育児の普及率が低く、離乳後も米や豆類などといった偏った食材を口にする乳幼児が多く、約4割が慢性の栄養不良からくると思われる発育不全に陥っている現状の改善に取り組んでいます。

母子保護の教育が行き渡りお母さんが安心して出産できる環境が整い始めています。

日本で使用されている、「母子手帳」を参考に簡単なものを作成し、導入しています。(簡単な読み書き計算ができるようになった最大の成果の一つです)

### 生計向上

プログラムを展開する地域は、2日に\$1-以下という困窮家庭の地域です。

家族がより安定した収入を得られるように、農業、畜産、等に支援が必要です。

耕作地の開墾・改良に取り組む、生産者としての教育活動の支援をしています。

ジャガイモ畑の実現。米作の実現。野菜の売買の仕方を指導しています。

地域住民が十分な食糧生産・確保ができるようになり、灌漑設備の整備、普及と、栄養価の高い様々な農作物の栽培を推進しています。

また、収穫した農作物を食べさせることにより栄養状態の改善に繋がっています。路上での販売にも効果を上げています。

また、「牛の銀行」「山羊の銀行」レンタル化が実現し、1日\$1.5-を実現し格安のレンタル費を実現し耕作地の開墾に役立てています。

## 教育

地域のリーダーや保護者を対象に啓発活動を行って教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけ、家事手伝いをする子どもたちの「朝の学校」、日常の労働のため学ぶ機会に恵まれない成人の「夜の教室」で「簡単な読み書き計算」を学びます。

学ぶ環境作りに、教育施設や図書室の建設整備・教師への啓蒙を行っています。

**現地の医療関係者と協力して診療活動をしています。**

**「ヘルスキャンプ」の内容は、**

総合内科、婦人科、小児科、歯科、等の医師、看護師、薬剤師、ボランティア、日本人が参加し、検査、診察、診断、治療に当たります。

診察・投薬・治療・総て無料で行います。地域により 1500 名~2000 名の子どもや成人男女・高齢者が診察に訪れます。

キャンプ中の医師・看護師・検査・薬剤師・投薬・手術・等、関係者の費用を含め費用の負担は、皆様からお預かりしている支援金が役立てられています。

**PIN JAPAN の支援は、子供たちが教育を受け健康であることに加え、地域に住む人々が「家族や隣人に愛される」ことを目指すという特徴があります。**

人はみんな価値ある存在です。子どもころからそう認められ受け入れられて育つことが、将来、他者を認め、多様性を受け入れる大人になるためにとても大切だと思います。

世界や国の平和を作るのは人です。

PIN のメンバーに参加するには、総て手弁当（自費負担）が条件です。

支援している子どもたちが、将来の平和の作り手になることを願っています。

これからも PIN JAPAN の活動にどうぞよろしく願いいたします。

## PIN が求めている人材

### \*ドロワの法則 (Drawer's) 和訳：引き出し

筆筒の引き出しのようなものを言います。私たちは勿論のこと、人々にもたくさん(知識、技術、等)を持つように勧めています。

**ドロワは、世界や日本でも導入されている評価方法のひとつをいいます。**

**例えば、働きを 100%とすると、内訳は⇒優秀：20%、普通：80%、不可：20%に区分けします。**

**\*居住者には、筆筒〈知識や技術〉がありません。よって、知識や技術を入れる「引き出し」はありません。**

**人々には、居住地の多くの問題・課題も詳しく理解することができないのが現状です。プロジェクトが、総てうまくいくとは限りません。**

**何とかしたいと思う気持ちは、私たちも、皆が持っています。**

**PIN の取り組むプロジェクトは、このドロワの手法を導入しています。**

例えば、地域の人々に「簡単な読み書き計算」ができない人が多い場合。

テーマは「教育」と決め、解決に向かう支援活動がスタートします。

- ① プロジェクトとして具体的に取り組むかを検討します。
- ② 地域の実態について調査・研究に入ります。男女別・年齢・子供等の整理
- ③ 教育を受ける機会に恵まれなかった理由を調査し、まとめます。
- ④ 居住している民族（カースト）を調査し、まとめます。
- ⑤ それぞれ家庭の生計を立てている暮らしの情報を聞き取りします。
- ⑥ 学ぶ機会を手に入れ自ら学び、子供を学ばせたいかを調査・まとめます。
- ⑦ 何が不足していて、他の地域と同等に“普通”の居住者と確認をします。
- ⑧ 学校という「建屋」の建設に住人が参加することの確認を取ります。
- ⑨ 学校建設委員会を立ち上げ、この組織は、運営委員会に移行します。
- ⑩ ネパール式のレンガ造りの設計図を作成します。（PIN は、協力します）
- ⑪ ここで、PIN は、支援者に支援金を求めます。
- ⑫ 支援金の集まりに適合した「建屋」を民族（カースト）に注文します。
- ⑬ 日本からワークキャンプとして短期間ですが、建設に参加します。
- ⑭ 彼らの信じる宗教儀礼に基づいて、開校式を行います。
- ⑮ 但し、家の仕事の手伝いをする子供は、「朝の学校」で学びます。
- ⑯ 成人者は、昼の労働も終わり「夜の教室」で「読み書き計算」を学びます。
- ⑰ プロジェクトに取り組むと・・・変わります・きっと変わります
  - 「鶏の数」が数えられるようになりました。
  - 「子供たちの名前」が書けるようになりました。
  - 「自分の名前」が書けるようになりました。
  - 「村の名前がわかりました」聞かれても伝えられるようになりました。
  - 青年は、タクシーのドライバーとしてカトマンズで働いています。  
乗車賃の請求ができるようになりました。
  - 「農作物が売れるようになり、現金収入ができるようになりました」と  
婦人は話してくれました。
  - 一に一を加えると二になる・・・一と二を加えたら三になる・・・今日学校で習  
った！三に一を加えたら四になる・・・算数は楽しい。
  - 今日先生から日本のことを教えてもらった。
  - お母さんの計算手伝えるようになりたい。
  - ネパールという国に住んでいることを習った。

●特に印象に残っているのが、

一人のお母さんが、「見て 自分の名前が書けるようになった」  
「見て」「見て」「子供が何人いるかもわかったし」「名前もつけたし」  
「子供の名前も書ける」「教えることもできるよ」・・・

子供のように、はしゃいでおられました。

困窮生活・生計・教育・健康・衛生・栄養・水・等々の諸問題（課題）を引き出しに詰め込み放置していると、親から子へ、ご近所へ、周辺地区へと、困窮生活（貧困）の連鎖、等が“掛け算”で増加していくことを見聞してきました。

皆で話し合っ、諸問題（課題）を、引き出しから出して、解決する為のプロジェクトに取り組むと、少しずつ、少しずつ、ですが、親から子へ、家族へ、ご近所へ、地域の人々へ“足し算”のスピードですが、増えていくことも知りました。

### 平和を作るのは人。

支援した子供や人々が、将来の平和の作り手になることを願っています。

厳しい現実の中で、精一杯生きる子供たちや人々。

子供たちや人々に、今の社会はどのように映っているのでしょうか。

「大人の事情」で子供たちの人生は大きく左右されます。

2019年、世界の難民は6560万人、その内18歳未満の子供たちは51%を占めています。その内の子供たち5歳まで生きられないのです。

厳しい現実のなかで、子供たちや人々は生きていくしか選択肢が無いのです。

人はみんな価値ある存在です。

子供の頃からそう認められ受け入れられて育つことが、将来、他者を認め、多様性を受け入れる大人になるためには、とても大切だと思います。

### 「簡単な読み書き計算」から始まる新しい人生

子供たちや大人が教育を受け健康であることに加え、「家族や隣人に愛される」ことを目指すという取り組みは続けられます。

### これからの課題

高齢化が進む、山岳に住むネパールの人々を憶えていて下さい。

#### \*フレイル

(Frailty) 和訳：虚弱

高齢者が増加しているのは、日本だけの問題ではありません。ネパールでも高齢化の問題（課題）が山積しています。

弱い立場の人々に、寄り添う姿勢と気持ちと、心を持ち合わせている人の参加をお待ちしています。

今後とも、温かいご支援、ご鞭撻、よろしくお願いいたします。

気候の良い時期にキャンプを計画しております。キャンプにも是非ご参加、お待ちしております。

特定非営利活動法人 PIN JAPAN (NPO)

代表理事：坂元 正武 (2020・2・26)